

生徒が輝く語彙指導 私の心構え

～笑顔と涙と得点力～

山田 健介

(山形県米沢市立第七中学校)

1. 楽しく力のつくインプット

以下に示すのは、中学校3年間の学習を終えた生徒の生の感想である。楽しく効果的なインプットとはどのようなものかが見えてくると思う。

私は1年生で英語を始めるとき、3年間で英語が話せるようになるとは全然思っていませんでした。でも今は話せるようになりました。

私は小学校のとき、中学校の英語授業は、ひたすら単語を覚えたり、黒板に文章を書いて意味を考えたりするつまらない授業だと思っていました。しかし、先生の授業は違いました。英語の歌を歌ったり、チャンツをやったり、リズムに合わせてやるのがとても多かったです。私はその方が普通に書いているよりは、すごく覚えやすかったです。

2. 中学校英語の2つの力「感動の涙」と「得点力」

私は英語の授業を通して、「自分と人を幸せにできる生徒」を育てるために、自己表現活動を多く取り入れている。生徒は授業中の活動の中で、人とかわかる心地よさと楽しさ、深さを学んでいく。その積み重ねの末に、最後のスピーチ活動で感動の涙を流し、中学校を巣立っていくのだ。また、3年生ともなれば受験を意識しないわけにはいかない。得点力にも意識を向けさせている。3年間担当した上記の彼らは高校入試の模擬試験でも平均70点を越え、全体の7割以上の生徒が英検3級以上を取得していた。

その土台となるのは、生徒の中に蓄えられる語彙と表現の量である。自己を表現するにも、誰かの表現を受け取るにも、多くの語彙と表現を体に染み込ませ、使えるレベルまで習熟させなければならない。

そのための方策を、少しばかり紹介させていただく。どれも素晴らしい先輩方に学び、自分の中に落とし込んだものであることをあらかじめお断りしておく。

3. インプットメニュー特選7品！

新学習指導要領により、中学校で学習すべき語彙数は900語程度から1200語程度に増加する。語彙の指導には、今まで以上に意を用いなければならないだろう。アウトプットすることが、語彙・表現を習熟させるための極めて効果の高い方法だと考えるが、そこに辿り着くまでに行っている、インプットの要素が多い活動を7つほど挙げさせていただく。

- 1分間クイズ(後段で詳述)
- Last Sentence Dictation(後段で詳述)
- 教科書音読(後段で詳述)
- チャンツ
- 英語の歌
- Talk & Talk(正進社)※ドリルのページ
- 英語自学(音読筆写, ワーク3回繰り返し)

どの活動でも大切なことは2つ。1つは、できるだけ単語だけの練習は行わず、語句のまとまりや文章でインプットを行っていくことである。単語の綴りや発音、意味だけ完璧に覚えても、その使い方が分からなければコミュニケーションにはつながっていかないからだ。そして、機械的に覚えた単語は、機械的に忘れていく。対して、アウトプット等、自分の言いたいことを、授業で知った単語や表現を用いて書けた・言えた! または、相手の使った単語や表現から相手の気持ちや情報を理解できた! といった感動を伴って英語に触れたとき、それは深く心に残るものである。そんなとき、大量にインプットされた中から、その何割かが、確実にインテイク

されていくのだろう。

もう1つは、何度も何度も繰り返すことである。同じ活動を繰り返したり、以前に触れた単語や表現に、他の題材・教材で繰り返し出会うようにしたりする。そうすることで、生徒はより多くの単語や表現に、知らず知らずのうちに習熟していく。私の場合、インプット活動用のプリントや教科書・ドリルブックの1ページを1度で終えることはない。地道な繰り返しを、どのように授業や家庭学習で仕組んでいくのが大切である。

4. すぐにも取り組める大量インプット活動

ここでは、私の実践している方法を3つほど紹介する。機械的な活動が多くなるため、ペア活動の中で達成感や伸張感が味わえるよう心がけている。

☆1分間クイズ(〇〇秒クイズ)

プリントの左側に教科書本文に出てくる単語・表現を、右側に意味を書いたプリントを用い、リズムカルに練習する。

例)

□□□□ think 思う 考える
□□□□ I think so. 私はそう思う。

この活動はペアで行う。片方が問題を出し、もう一方が答える。出題した生徒が正解かどうかを□にチェックしていく。制限時間内にできるだけ素早くどんどん答えていく。1つのプリントには、30分前後の単語やその単語を含んだ表現が載っている。教科書に載っている表現や覚えてほしい語句などを提示している。

ペアで行うため、自分の役割が与えられる。そうすることで、より意欲的になり、活動に集中できる。そして、その日の目標数以上答えられたペアは、満面の笑顔でハイタッチをする。本当に嬉しそうで、こちらも笑顔になり、元気になる。

☆Last Sentence Dictation(以下LSD)

LSDは、ご存じの先生方も多いと思う。長勝彦先生(元武蔵野大学客員教授)から教わったものだ。

授業冒頭5分間の帯活動として行っている。教科書を用い、既に学習を1度終えているページで行う。以下に私の場合の指導手順を示す。

①ペアになる。

- ②片方が教科書の本文をチャンク毎、日本語に直す。
- ③もう一方がその日本語を英語に直す。
- ④役割を交代する。
- ⑤全ペア終了後、生徒は教科書を閉じ、教師のあとについてシャドーイング。
- ⑥教師が本文を読む。そのページの本文の任意の文の所で音読を止める。その最後に読んだ文(Last Sentence)を生徒は書き取る(Dictation)。

教師は次時にLSDを行うページを予告しておき、生徒はそのページの練習をしてくる。この活動も、地味で根気のいる活動となるが、その効果は、家庭学習での準備とも相まって絶大である。

☆教科書音読

音読はインプットという観点から見ても効果的である。1分間クイズで練習した語句の繰り返しにもなるし、LSDトレーニングの土台ともなる。また、単語だけの学習にならず、文単位でインプットが可能であり、様々な方法を提示することで、飽きずに繰り返しトレーニングを行うこともできる。普段から行っていることのいくつかを以下に示す。

- ・overlapping(教科書CDに合わせて読む)
- ・paced reading(設定時間ぴったり読み終える)
- ・read & look up(スピーキングへの橋渡し)
- ・shadowing(CDのあとから影のように追いかけて読む)
- ・rapid reading(教科書の各ページに制限時間を設定し、各自クリアを目指す)
- ・星読み(これも長先生から教わったもの。教科書本文を5回読んで1つの星を書く。チャンク毎音読し意味を思い浮かべていく赤星読みと通常通りの音読の黒星読みの2種類を課している。)

5. 語彙指導は何のために

指導で大切なことは、なぜ・何のためにといった目的意識であると考え。語彙指導も然りではないだろうか。心を耕してこそ語彙は定着する。私は、授業が生徒の笑顔と感動の涙と得点力につながっていくよう、努力しチャレンジし続けていきたい。輝く生徒の姿は、涙が出るほどに最高である。

【参考文献】

長勝彦(編)(1997)『英語教師の知恵袋(上)』開隆堂出版。